

教育班便り

7月 その2

【学校教育の指導の重点】

- 重点1 豊かな心と健やかな体の育成
- 重点2 確かな学力の育成
- 重点3 家庭・地域と連携・協働した
創意ある学校づくりの推進

夏季休業に入りすぐに県中総体や吹奏楽コンクール等が開催されました。今週には県教委主催「算数チャレンジ大会」2022予選が開催され、今年度は管内12小学校、44チーム(1チーム3人編成)が参加しました。児童生徒のみならず、そして先生方のこれまでの努力と挑戦に拍手を送りたいと思います。

さて、今回も引き続き、事務所主催研修会の様子をお知らせします。

以下のコメントは参加された先生方からいただいた感想の一部です

特別支援教育研修会 6月7日(火)より

当日は22名(幼稚園2名,小学校12名,中学校8名)の先生方にご参加いただきました。講義Ⅰでは、気仙沼支援学校の小野寺由紀先生より、「特別支援教育におけるICT活用」についてお話をいただきました。

講義Ⅱでは、学力向上指導員の九条小学校 千葉恭子先生より、「個別の教育支援計画及び個別の指導計画の活用」についてお話をいただきました。研修会後半は小グループに分かれて情報交換を行いました。



- ・同じ悩みを持って日々頑張っている方がいることに元気をいただきました。
- ・特別支援教育は大変なことが多いですが、面白いこともたくさんあります。それを感じられる自分でいたいと考えて感じました。



- ・講義Ⅰでは「教育にとって重要なのは、子供がみんな同じ方法を用いるのではなく、子供がみんな公平に学習機会を得ること。」という話がとても印象に残りました。
- ・学習や生活上の困難さを改善・克服するためのICT活用に向けて多くのヒントをいただきました。

- ・講義Ⅱでは個別の教育支援計画及び個別の指導計画について、特に中学校は教科担任制なので、定期的に情報共有し指導についての見直し等をしていく必要があると感じました。
- ・市内公立幼稚園では共通の様式を作成し活用しているところですが、作成や扱いなどについて、改めて市内5園で確認し改善に努めたいと思います。

講師等研修会 6月9日(木)より

当日は23名(小学校15名,中学校,6名,高校2名)の先生方にご参加いただきました。全体会の講義では、学力向上指導員の九条小学校 千葉恭子先生より、「特別な教育的視点を必要とする児童生徒の理解と支援について」お話しいただきました。分科会では、学年部や教科別の小グループに分かれ、「日常の教育活動における悩みの解消のために」というテーマのもと情報交換を行いました。学力向上指導員の千葉恭子先生(九条小)、熊谷信彦先生(階上小)、千葉孝先生(鹿折中)、上長根伸哉先生(階上中)、須藤恵一先生(条南中)には各グループに入ってください、貴重な助言をいただきました。

- ・講義ではユニバーサルデザインを考慮した学級づくり、授業づくりについての理解を深めることができました。… 短く具体的な指示を意識した授業づくりに努めていきたいです。
- ・特に、「リフレーミング」が自分自身に不足している点だと痛感しました。



- ・悩みを先生方と共有することができ気が少し楽になりました。
- ・分科会では、自分の課題に対する手立てを講師の方に教えていただき、すぐにも授業で実践してみたいと思いました。

第1回実技教科等研修会 6月10日(金)より

本研修会のねらいは、実技教科担当教員を対象とし、学力向上指導員の授業参観を通じて日頃の指導上の課題に係る意見交換等を行い、教科指導力及び授業の質の向上を図ることです。今年度1回目は条南中学校の大内忍先生より3学年の音楽の授業(題材名「歌詞と旋律の関わりに注目して合唱しよう」、教材「きみとともに」)を提供していただきました。生徒の豊かな表現力を引き出す働きかけのある歌唱の授業でした。当日は10名の先生方(管内小・中学校8名, 管外中学校2名)が参加しました。

・小学校の先生方とも協議できたことで、学びの系統性について改めて感じることができました。このように小・中で学び合える研修会が増えればと思います。

以下のコメントは参加された先生方からいただいた感想の一部です

- ・大内先生の生徒の思考につながる指示, 流れなど今後すぐにもでも取り入れたいと思うものばかりでした。毎時間の積み重ねがあつてこそ、表現の幅が広がり、生徒の自信につながるのだと改めて気付かされた研修でした。
- ・生徒の意欲や気持ちを大切に授業でした。
- ・主体的に自ら学ぼうとする姿を授業の中で感じ取ることができました。



第2回実技教科等研修会 6月27日(月)より

2回目は唐桑中学校の小野寺順子先生より2学年の美術の授業(題材「風景に思いをよせて」～中間鑑賞会～)を提供していただきました。鑑賞の授業では、感じ取る力や思考する力を一層豊かに育てるために、自分の思いを語り合ったり、自分の価値意識を持って批判し合ったりするなど、言語活動の充実を図ることが大切となります。今回の授業では、この点においてたいへん参考となる手立てを拝見させていただきました。2年生の作品はどれも力作ぞろいで、中間発表会とは思えないほどでした。当日は7名の先生方(管内小・中学校5名, 管外中学校2名)が参加しました。

- ・授業については、グループ毎の発表や感想記入の際にキーワードを参考にできるようになっていたことや見通しをもって活動に取り組めるよう工夫されていたこと、そして生徒の思いが色や形となり作品に表れていたことに感動しました。
- ・自身の研究授業での課題であった板書について、その解決につながるような実践を拝見させていただきました。

- ・言語活動の在り方について、キーワードの提示や対話により思いを引き出す場の設定など、様々な方法があることが分かりました。
- ・鑑賞活動における学び合いについて考えさせられました。子供たち同士が学び合い、深め合うとはどういうことなのか、どのような場面設定が必要なのか、考えるよい機会となりました。
- ・授業に加え、美術室経営や机の配置等、多くの学びがありました。



お知らせ1 指導主事・学力向上指導員の派遣事業について

管内校長会議・教頭会議でもお伝えさせていただいておりますが、各校(園)の校(園)内研修会や幼・小合同研修会、小・中合同の研修会、教科研研修会等において、指導主事や学力向上指導員を活用することができます。派遣に係るお問い合わせは、教育班(24-2573)となります。

お知らせ2 活用が求められる資料・動画について

「令和4年度 生涯学習計画 気仙沼教育事務所管内の教育」(水色の冊子)のP57~P61に活用が求められる資料として、文部科学省、国立教育政策研究所、教職員支援機構(NITS)、宮城県教委、総合教育センターの資料や成果物を紹介しています。(気仙沼教育事務所-宮城県公式ウェブサイト教育班(学校教育)からも閲覧できます。)総合教育センター教育研究グループの成果物に関しては、当管内の先生方も大きく貢献されています。ぜひ、校内研修や自己研修にご活用ください。

